平成30年度
第７回 鶴田ダムとともに水害に強い
地域づくりを考える意見交換会

説　明　資　料

平成３１年３月１４日（木）

国土交通省　九州地方整備局　鶴田ダム管理所
川内川河川事務所

目　　次

３．議事

１）平成３０年度川内川の出水状況　・・・　３
平成３０年度鶴田ダム洪水調節状況　・・・　別紙
３）防災情報の提供手法・内容について
・防災情報の提供事例紹介　・・・　６
・ひた水防災サポートセンター　～設立までの道のり～　・・・　１６

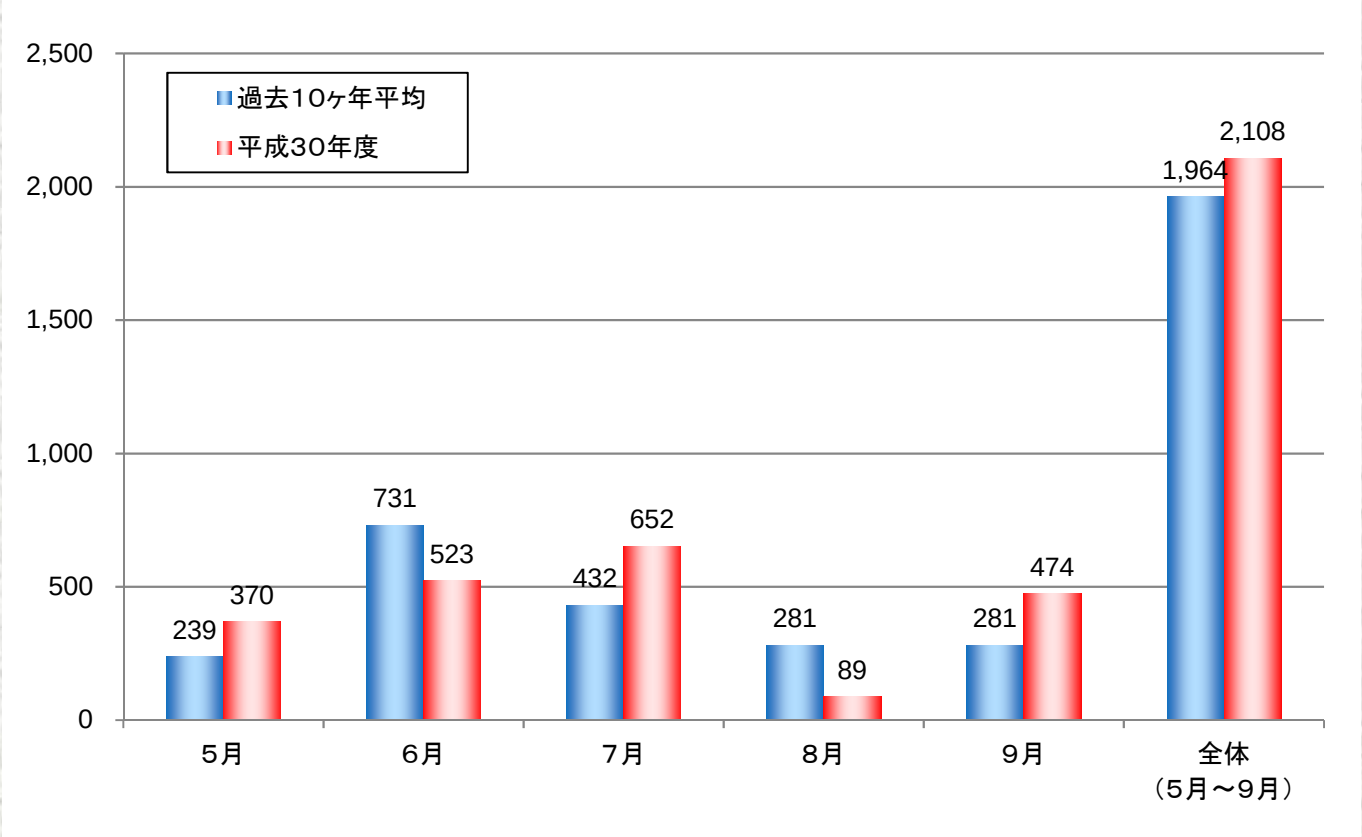
３－１）平成30年度川内川の出水状況及び鶴田ダム洪水調節状況について

平成30年の出水概要

◆ 今年度出水期間中の川内川流域平均の総雨量（６月～９月）は２１０８㎜となり、過去１０ヶ年平均と比べ１．０７倍であった。

◆ 九州南部の梅雨期間は、５月２６日ごろ～７月１１日ごろであり、梅雨入りの時期は 平年より約５日早く、梅雨明けについては約３日早かった。

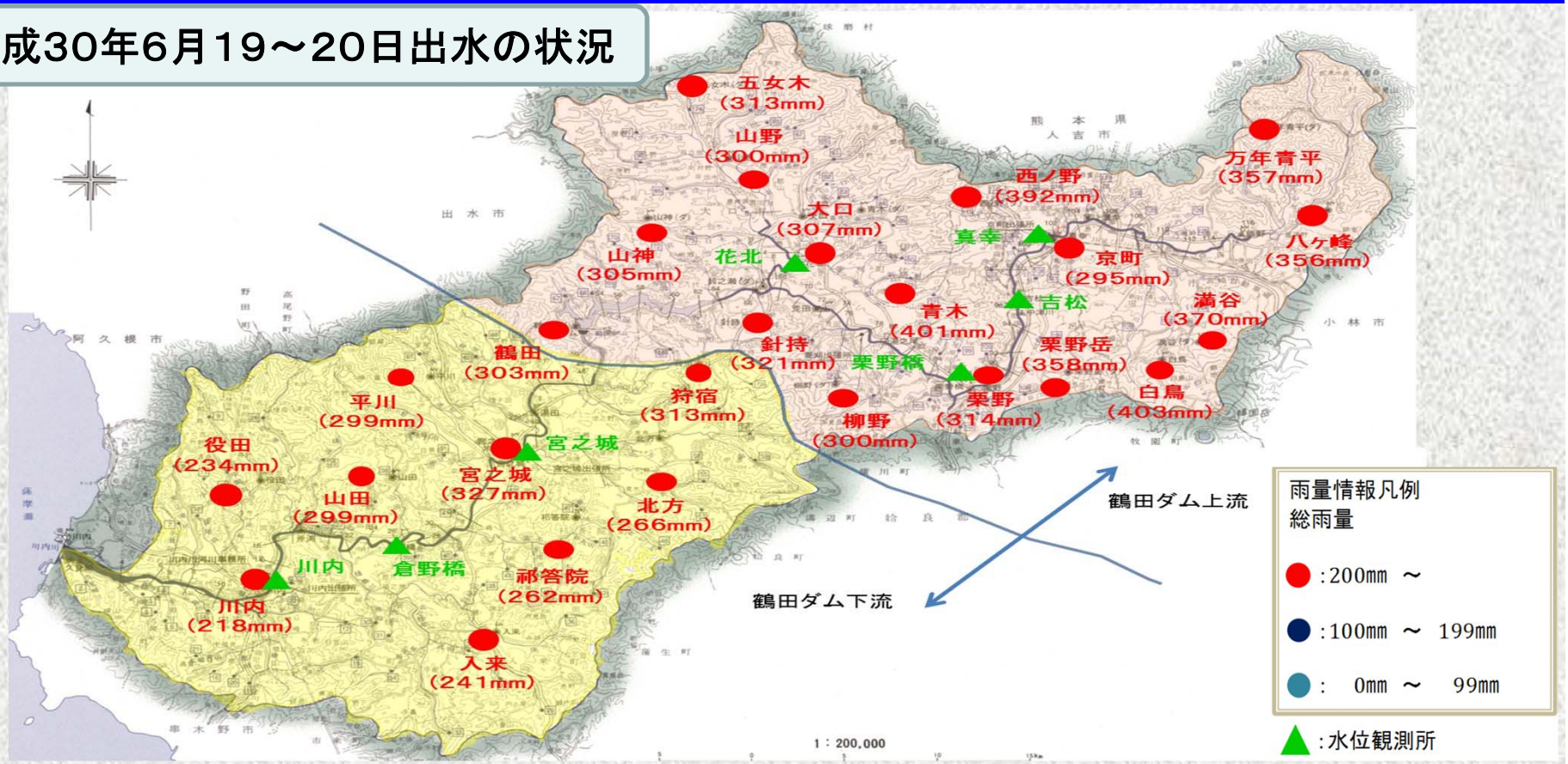
◆ 川内川流域の水位については、水防団待機水位を超える出水が、６月１回，7月１回計２回あり、花北水位観測所においては、避難判断水位を6月20日に１回超えた。（水防団待機水位超えた観測所： 真幸、吉松、栗野橋、花北、宮之城）

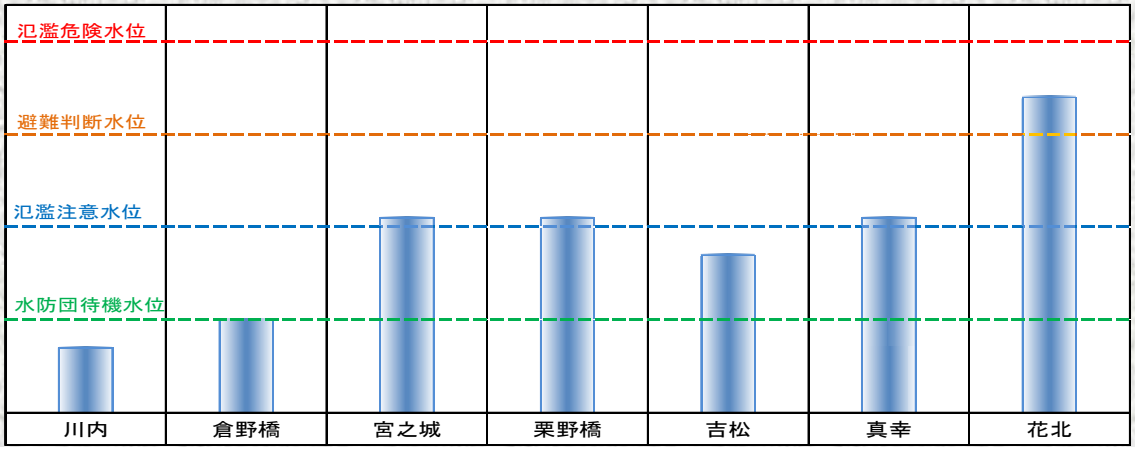


※本資料の雨量、水位等のデータは速報値であり、今後変更される場合があります

平成30年の出水概要

平成30年6月19～20日出水の状況





【水位状況】

7つの洪水予報・水防警報対象観測所のうち、伊佐市花北水位観測所において、避難判断水位に達しました。

防災情報の提供手法・内容について

川内川河川事務所

アンケート調査結果

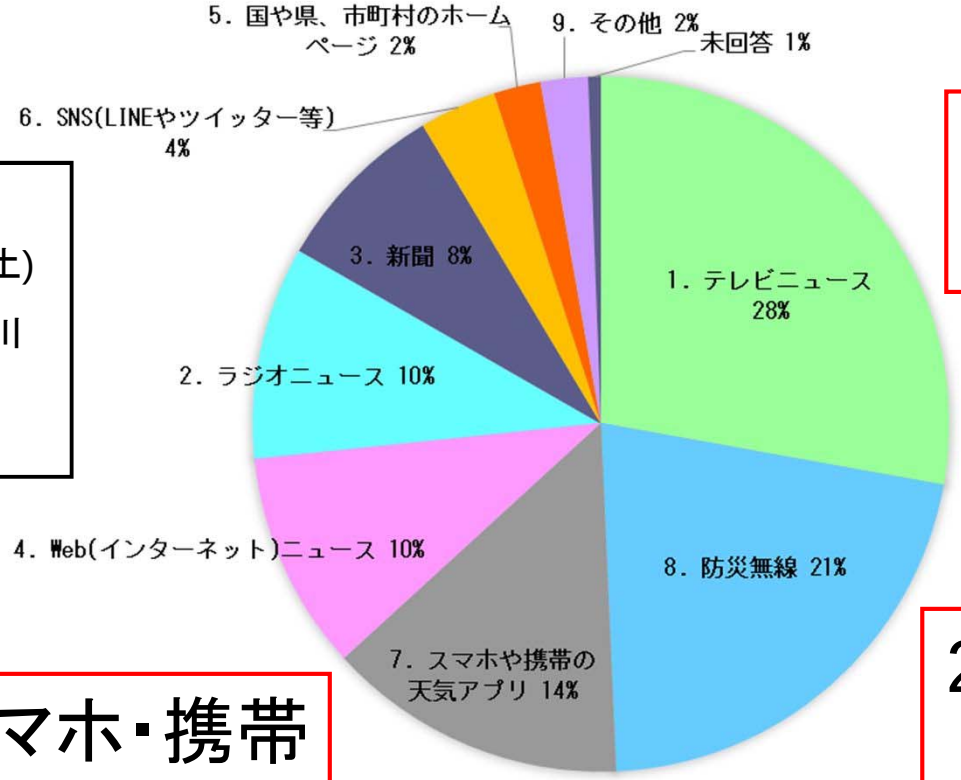
あなたが普段、どのようなものを利用して防災情報を得ているか教えてください（平常時）

アンケート調査

期間：2/21(木)、3/2(土)

場所：薩摩川内市内川内川河川利用者

回答数：約200人



1位　テレビ 28%

2位　防災無線 21%

3位　スマホ・携帯 14%

アンケート調査結果

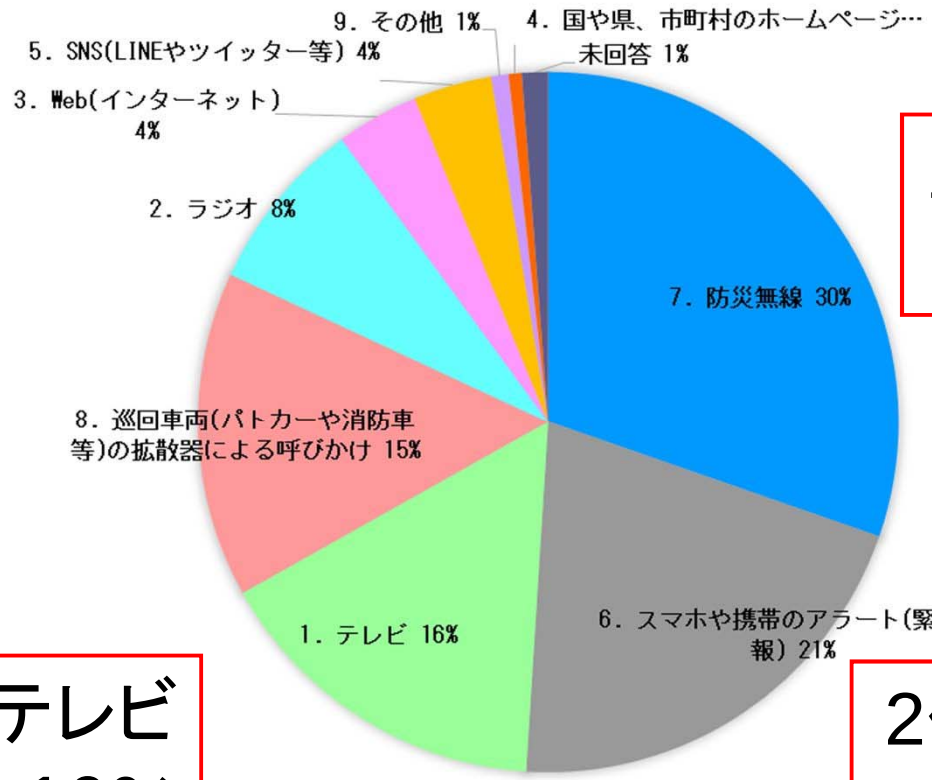
川内川に洪水の恐れが高まり切迫した状況になった時、緊急避難を呼びかけるものとして最も効果のある（伝わる）と思うものを教えてください。（洪水時）

アンケート調査

期間：2/21(木)、3/2(土)

場所：薩摩川内市内川内川河川利用者

回答数：約200人

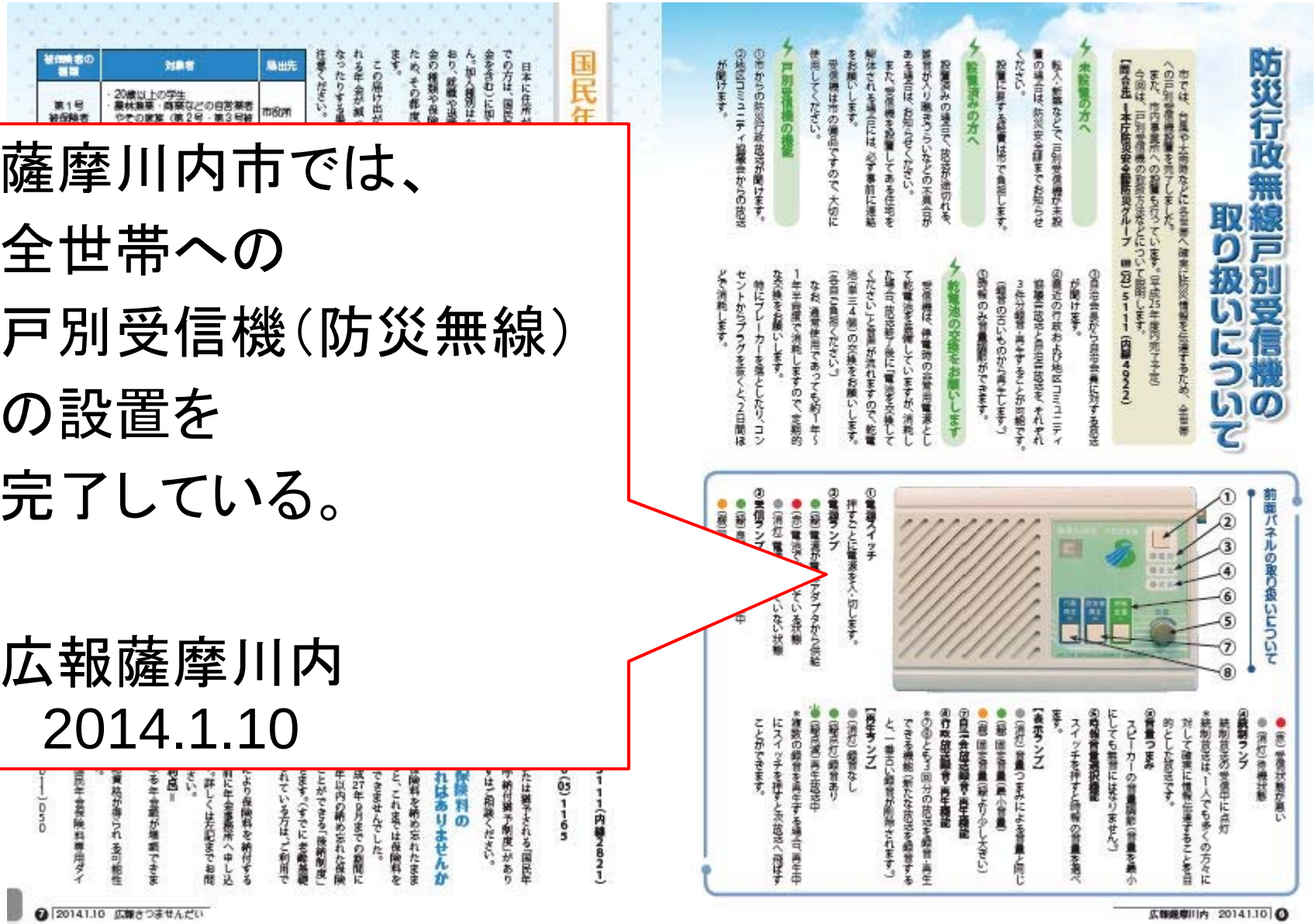


1位　防災無線 30%

2位　スマホ・携帯 21%

3位　テレビ 16%

薩摩川内市の戸別受信機設置状況



薩摩川内市では、
全世帯への
戸別受信機（防災無線）
の設置を
完了している。

広報薩摩川内
　2014.1.10

アンケート調査結果等を受けて

アンケート調査結果、防災無線の設置状況を受けて

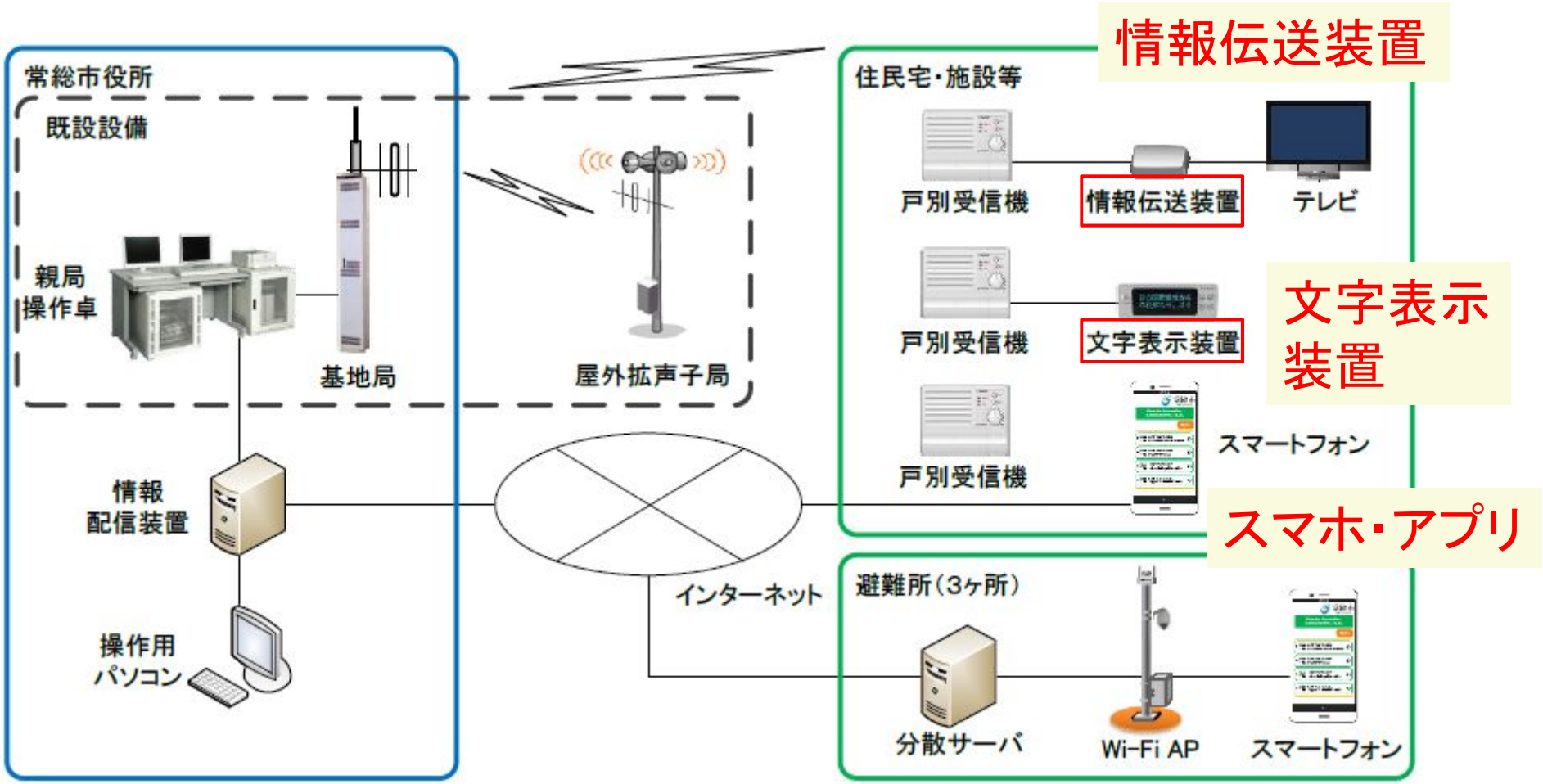
・テレビ

・防災無線

・スマートフォン

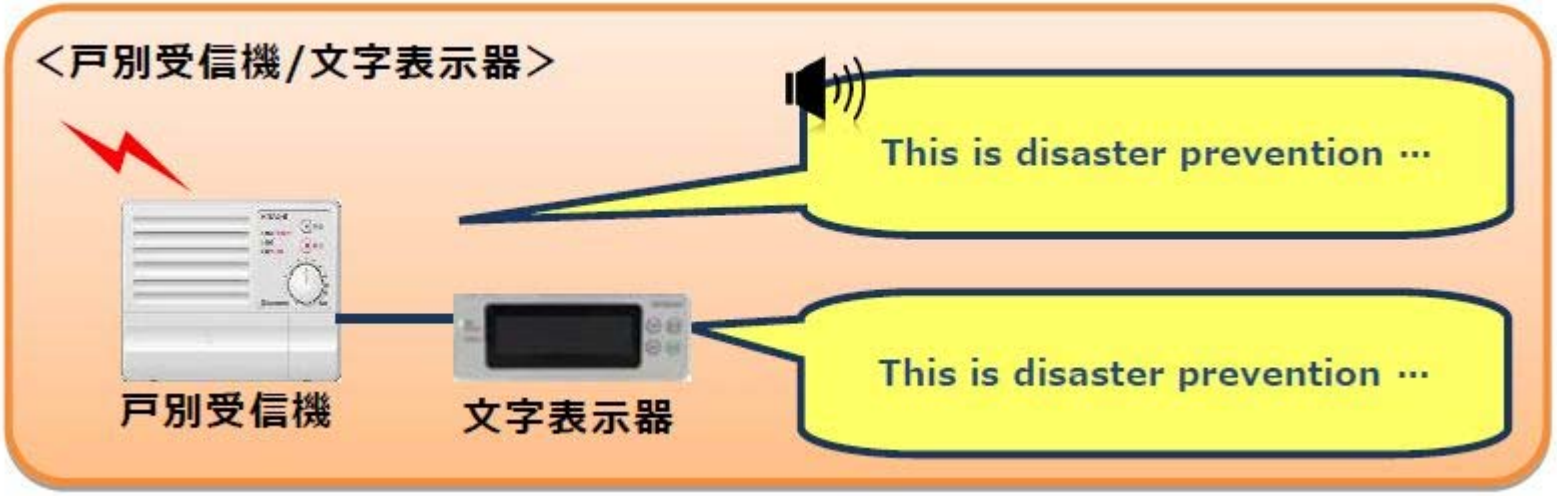
を利用し、さらに迅速・的確に情報提供を行い、避難行動に繋げてもらう手法はないか・・・

茨城県常総市の事例（洪水時）



茨城県常総市の事例

<戸別受信機/情報伝送装置>
This is disaster prevention …
戸別受信機
情報伝送装置
家庭用テレビ
This is disaster prevention …

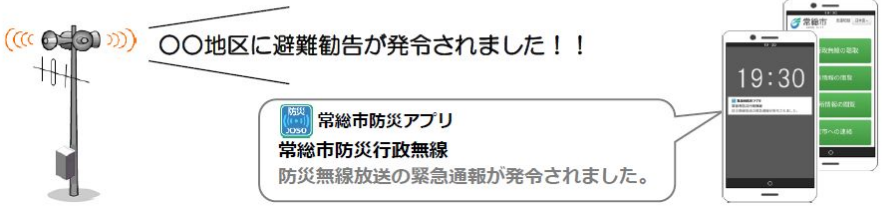

<戸別受信機/文字表示器>
This is disaster prevention …
戸別受信機
文字表示器
This is disaster prevention …

茨城県常総市の事例

緊急時に防災行政無線をプッシュ通知でお知らせ！

常総市
防災アプリ

4ヶ国語に対応
日本語・英語・
ポルトガル語・
スペイン語



<ポータルサイト> 防災行政無線の聴取

防災行政無線画面
「最新の通報履歴」をタップ

再生画面
設定言語で再生

～防災アプリでできること～

※防災ポータルサイトからもできます

防災行政無線をスマホで聞けます
緊急放送時はプッシュ通知でお知らせ。
過去の放送内容も聞けます。
※聞くことが出来るのは緊急放送のみです。

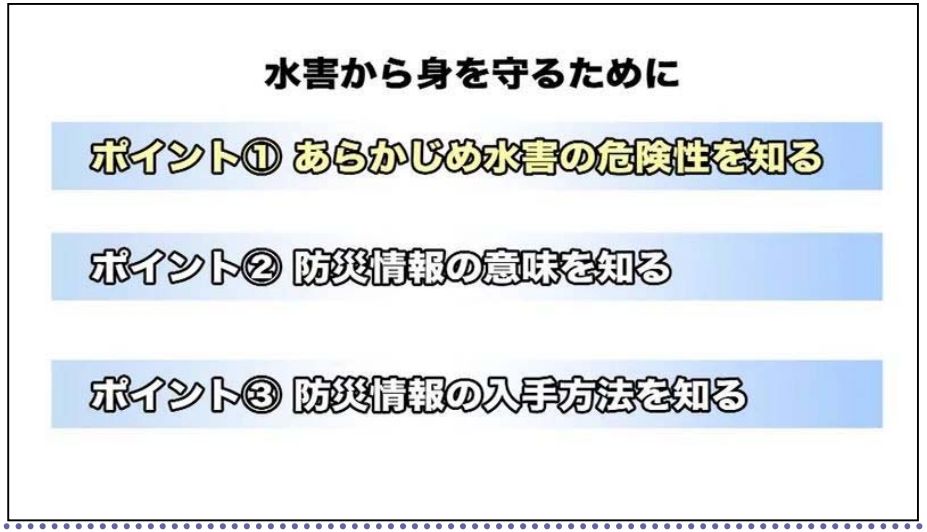
近くの避難所を地図から探せます
現在位置周辺の避難所を表示します。
避難所の開設状況を確認できます。

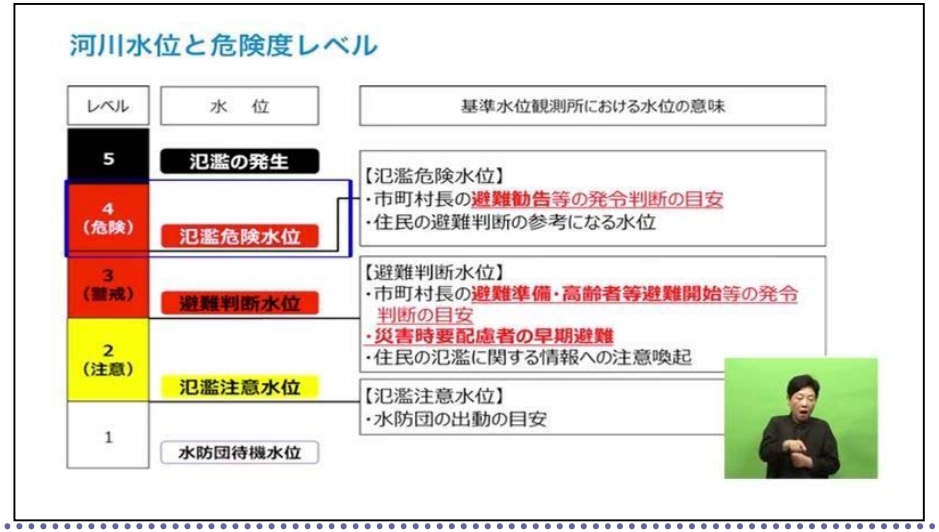
災害情報を連絡・閲覧できます。
災害情報を常総市へ連絡できます。
連絡時に写真も送れます。
災害情報が地図上に表示されます。

日本語・英語・ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語・ｽﾍﾟｲﾝ語に対応
放送内容を４ヶ国語で聞けます。
災害情報も各言語に対応しています。

テレビ放送の事例（常時）

1.佐伯河川国道事務所とケーブルテレビの連携事例





テレビ放送の事例

2.NHK「よろしくファンファン」（児童向け番組）事例

水防災に関する取り組み事例

ひた水防災サポートセンター

設立までの道のり

2019年3月

ＮＰＯ法人ひた水環境ネットワークセンター

はじめに

大分県日田市は、平成24年以降3回の洪水を経験しました。今年も7月の同時期に大雨が降り、避難勧告が発令される事態となりました。幸い日田市内には大きな人的被害はありませんでしたが、広島・岡山・四国地方に甚大な被害をもたらす災害となりました。

50年に1度といわれる大雨が頻発する時代に、ハードに頼った防災対策から、住民それぞれの意識を高めるソフト対策の必要性が求められています。

ひた水環境ネットワークセンターでは、平成24年の洪水の振り返り、自治会の意識調査、さらに平成29年の水害直後の自治会の動き、住民の動きや意識に関して調査をしてきました。住民の意識調査には826通の回答をいただき、防災直後の率直な声を聞くことができたと感じています。

また自治会長様をはじめとした防災関係者の勉強会では、参加者のみなさまから様々なご意見をいただき、今後の防災対策の方向性を模索してきました。

そんな中から、防災意識を高めるには「普段からの川への関り・理解」「地域への関り」「広域での連携」が必要であると考えました。

そこで広域連携の柱となる「水防災サポートセンター」を設立しようと計画し実践してきた内容をご紹介します。

・災害１回目・・・「避難勧告が出なかった、遅かった、避難所に～の問題が」
行政に対する不満・要求。希なことが起こった認識。
・災害２回目・・・行政に頼って自分で動かないことの危険、不便が身にしみる。
希な事だと思わなくなり、備えの意識が高くなる。
・災害３回目以降・・・起きるのが当たり前と思うようになり、備えの意識が更に高まる

1．調査から見えてきた防災意識と地域活動の相関関係

自主防災組織の活動と地域活動は関係あり

自主防災組織の「活動に参加している」と答えた割合の高い地域は、
地域の活動へも「参加している」割合が高い。

自主防災組織の認知率の高い地域		自主防災組織の活動に「参加している」と答えた割合の高い地域		地域の活動に「参加している」と答えた割合の高い地域	
1 秋原町	92%	1 上手町	86%	1秋原町	83%
2 吹上町	81%	2 吹上町	69%	2吹上町	77%
3 上手町	70%	3 秋原町	67%	3上手町	77%
4 藤山町	64%	4 藤山町	61%	4坂井町	75%
5 天神町	63%	5 坂井町	60%	5清岸寺町	74%

防災意識の高い地域はいずれも被災地域。「普段から地域の活動に参加している」人の割合と「自主防災組織に参加している」人の割合が一致することから、普段の活動の取り組みの重要さがわかる。

3

2．防災意識向上に向けて

地域活動に住民を積極的に巻き込む

防災活動だけではなく、普段から地域活動への住民の巻き込み、住民同士のコミュニケーションを図ることが大切。

しかし、実際は―

- これまでも自治会では住民への呼びかけをしてきたが参加数が増えない。何をしたらいいのか？
- 自治会も高齢化が進み運営者がいない。また資金もなく新たな取り組みは困難。
- 新住民や若年世帯との意識の差があり、何をすれば巻き込めるかわからない。

その課題を解決するために

単独の自治会で行わず、近隣の自治会と連携して地域活動や防災活動をしていくことが有効。（香川県丸亀市の事例から）

その組織の運営を誰がやる？

4

3．水防災のネットワークの「核」をつくる

ひた水環境ネットワークセンターは、これまで水環境のネットワークを活かし、地域の水防災に関する情報共有や活動を支援するための組織を立ち上げます。

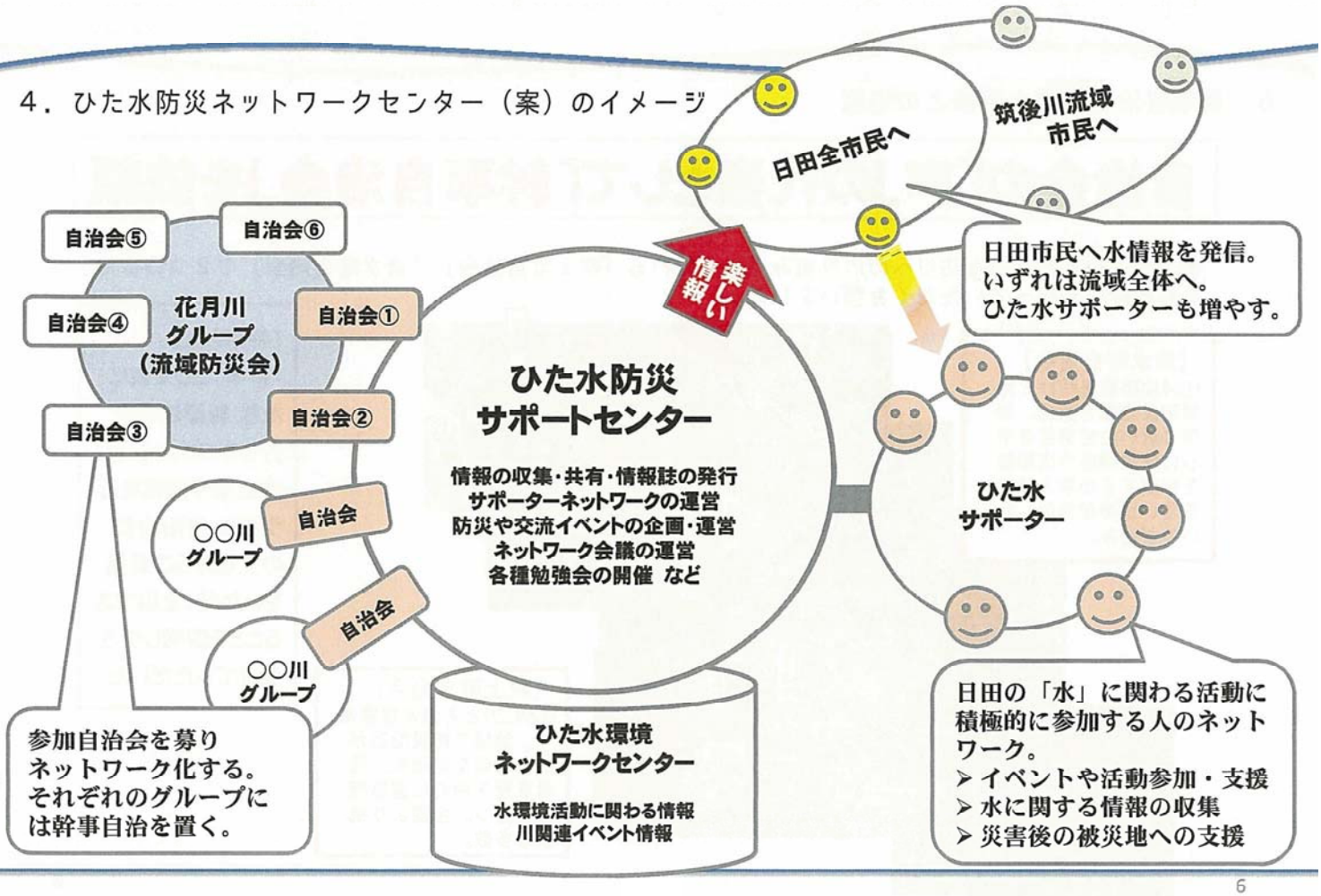
ひた水防災サポートセンター（案）

センターの役割

- 自治会毎の防災活動の情報を把握し、他の自治会と情報を共有します。
- 自治会を横断した防災活動を企画し、運営を行います。
- 地域活動の情報も把握し、他の自治会と情報を共有します。
- 川を楽しむ情報を中心に、地域の防災活動の情報や他エリアの防災に関する情報を広く市民に発信します。
- 防災や地域活動に協力できる人材を募集しネットワークします。

さらに、ひた水環境ネットワークセンターとして持つ、ネットワークや情報も防災サポートセンターと共有して運営します。

4．ひた水防災ネットワークセンター（案）のイメージ



5．スタッフ確定と事務局整備

これまでのネットワークを活用し新たなメンバー探し

水環境ネットワークセンターの現有メンバーは、防災に詳しいメンバーが少ないことと、専門の部門が必要であると判断し、これまでの団体のネットワークを活用し、防災に関心の高いメンバーを探すこととした。その結果、２名のスタッフに新たに本プロジェクトに関ってくれることになった。

木村 猛さん
元日田消防署職員。退職後嘱託として勤務。かつてまちづくり活動の一環で筑後川フェスタの運営にも携わった経験有。

松永 鎌矢さん
元災害支援NPO法人スタッフ。H29の水害支援に日田市に入りボランティアセンターなどを支援。その後、民間のボランティアセンターを立ち上げ、日田に移住。現在は地域おこし協力隊。

11月初旬スタート

新メンバーの加入で具体的な検討を開始。(もちろん懇親会付!)

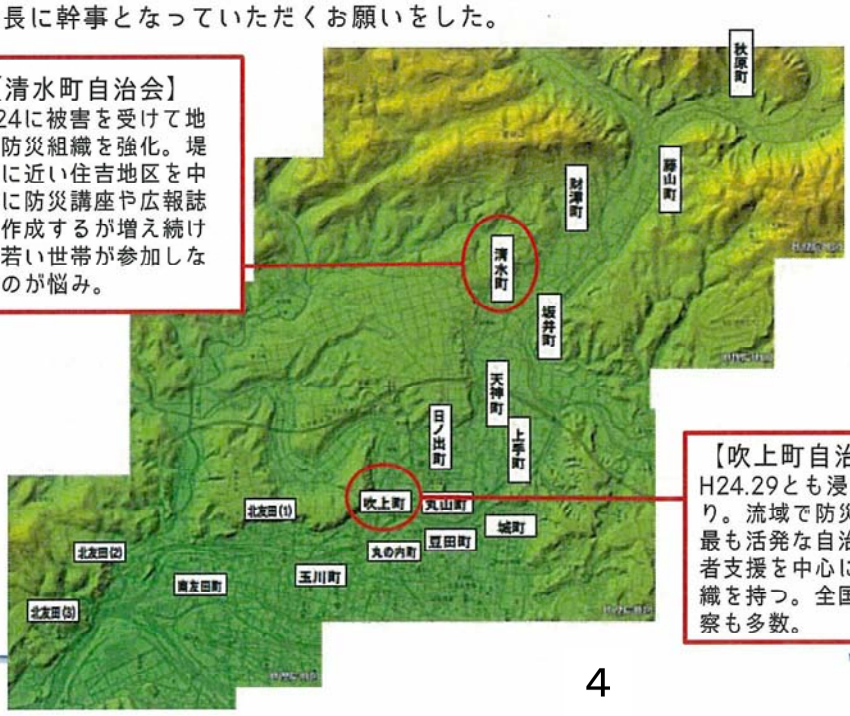
プロジェクトの事務局として現ひた水環境ネットワークセンターの事務局（商工会議所）とした。
しかし、メンバーはそれぞれ事業があるので常勤できない。相互のコミュニケーションはLINEを活用し、情報の共有及び意思疎通の場所とした。
LINEグループは11月初旬より運用開始。

6．幹事自治会調整と幹事との協議

自治会の「声」の代表として「幹事自治会」を依頼

花月川流域で先進的な防災への取り組みを行っている「吹上町自治会」「清水町自治会」の２つの自治会長に幹事となっていただくお願いをした。

【清水町自治会】
H24に被害を受けて地域防災組織を強化。堤防に近い住吉地区を中心に防災講座や広報誌を作成するが増え続ける若い世帯が参加しないのが悩み。



【吹上町自治会】
H24.29とも浸水被害あり。流域で防災活動が最も活発な自治会。弱者支援を中心に連絡組織を持つ。全国より視察も多数。

【幹事とは】
「幹事」として表にたち、組織運営を行うのではなく、企画立案や運営を行う際に、自治会長の立場からご意見をいただく立場であることを説明し引き受けていただいた。

7．幹事自治会調整と幹事との協議

	幹事の声		こうしてみよう！
広域で取り組むことは何？	組織を作っても難しい。気軽に取り組めるものがイベントが良い。	▶	楽しく若い人も「気軽に参加」できる防災イベント！
イベント内容に関して	楽しく若い人も気軽に参加できる防災イベントとは？	▶	講演会だけではなく「食べる」や「体験」の要素を入れる。
自治会の関り方	自治会は完全なお客様でよいのか？どのような関わりができるか	▶	住民への告知・広報はOK。安否確認訓練を意識した受付。
防災サポートセンターについて	どんな形になるかイメージがよくわからない。	▶	防災イベントをやってみれば形が見えるかも。

・楽しく
・ゆるく
・食べる

住民が参加しやすい「楽しい」イベントをやろう!

珍しい防災グッズ　ご当地グルメ　楽しい講演会　役立つ体験　快適な避難所　参加したくなるチラシ

・国がやると堅い講演ばかりで面白くない
・国がやると参加者は「公助」への期待ばかりで、「～してくれ」の要望会になってしまう
・主催が住民だと、「自助」「共助」の方へ意識が向く
・主催が住民だと自由な発想で開催できる。食べ物、楽しいイベントを入れることが可能

8．幹事自治会調整と幹事との協議

防災フェスタの開催決定。

1）防災講演会

①柳原　志保氏

「いつかでなく、今やろう!
～東日本大震災・熊本地震から学ぶ～（仮）」
歌うママ防災士として、2つの大災害の経験を教訓から伝える防災講演会を各地で展開中。

②浅見　公紀氏

福島県浪江町「街おこしから街残しへ」
ご当地グルメの街おこし活動を活かした災害支援と今（仮）

2）体験会

①ご当地グルメで炊き出しブース（有料）
ご当地グルメを通して地域を紹介している団体が被災地支援で行った炊き出しを実演していただきます。

○**なみえ焼きそば**（福島県浪江町）
○**田川ホルモン**（福岡県田川市）
○**佐伯ごまだしうどん**（大分県佐伯市）

②最新非常食試食販売会
災害食グランプリ「備蓄王」や「美味しい防災食®」など合計 30 種類を展示即売。

鶏そぼろ玉子とじ丼（備蓄王）

さばの味噌煮（美味しい防災食）

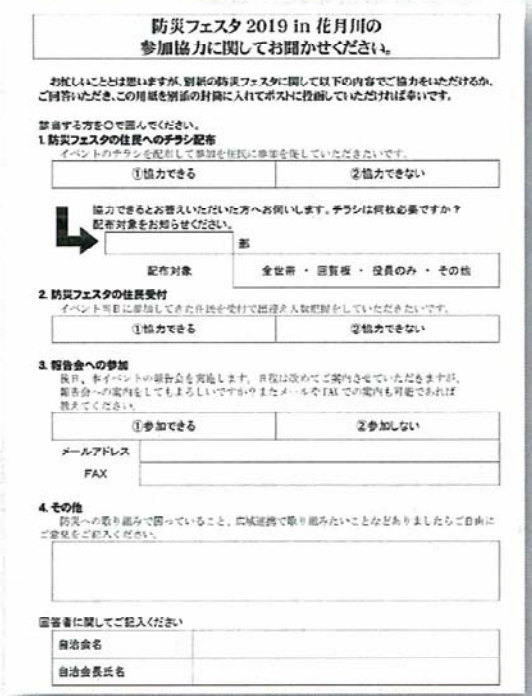
③快適な避難所のヒント
プライバシーも寝心地も抜群。「暖段はこベッド体験」
快適アウトドアライフが非常時も活躍。「SnowPeak」

暖段はこベッド

④防災の知恵ワークショップ
防災士の持つ、防災の知恵を体験してみよう。
「新聞紙で簡易スリッパ」「簡易担架づくり」など

9．イベントの確定と関係団体との広がり

流域の自治会に参加協力を要請



防災フェスタ 2019 in 花月川の
参加協力に関してお聞かせください。

お忙しいこととは思いますが、別紙の防災フェスタに関して以下の内容でご協力をいただけるか、ご回答いただき、この用紙を別添の封筒に入れてポストに投函していただければ幸いです。

該当する方を○で囲んでください。

1. 防災フェスタの住民へのチラシ配布
イベントのチラシを配布して参加を住民に参加を強していただきたいです。

①協力できる	②協力できない

協力できるとお答えいただいた方へお伺いします。チラシは何枚必要ですか？
配布対象をお知らせください。

	部
配布対象	全世帯 ・ 回覧板 ・ 役員のみ ・ その他

2. 防災フェスタの住民受付
イベント当日に参加してされた住民を受付で出迎え入場誘導をしていただきたいです。

①協力できる	②協力できない

3. 報告会への参加
後日、本イベントの報告会を実施します。日程は改めてご案内させていただきますが、報告会への案内をしてもよろしいですかかりまたメールやFAXでの案内も可能であれば教えてください。

①参加できる	②参加しない
メールアドレス	
FAX	

4. その他
防災への取り組みで困っていること、広域連携で取り組みたいことなどありましたらご自由にご意見をご記入ください。

回答者に関してご記入ください

自治会名	
自治会長氏名	

流域19自治会に郵送

自治会ごとに状況が異なることから郵送にて協力意思を確認。**14の自治会から参加協力の返信**

自治会	チラシ配布	部数	配布先	受付
丸山1丁目	できる	185	全世帯	できる
玉川3丁目	できる	6	役員	できる
清水町	できる	110	回覧板+重点地域配布	できる
吹上町	できる	370	全世帯	できる
財津町	できる	300	全世帯	できる
北友田1丁目	できる	287	全世帯	できる
丸山2丁目	できる	250	全世帯	できる
上手町	できる	200	全世帯	できる
豆田第2	できる	85	全世帯	できない
丸の内町	できる	15	役員	できない
城町1丁目	できる	35	回覧板	できない
豆田第１	できる	100	全世帯	できない
天神町	できる	380	全世帯	不明
藤山	できる	20	回覧	不明
合計		2343		

１０．イベントの確定と関係団体との広がり

日田市との協議

防災イベントに関して

行政が防災に関しての取り組みを行うと「難しくなりがち」
民間ならではの企画で市役所も応援する。イベントの告知・後援も可能。
防災講演会（柳原さん）も検討していたのでありがたい。

全面応援

各種連携支援

- **防災士**：市内500名の防災士の中からアドバイザーの方がネットワークを構築する動きがあり。
- **民間**：市内ダンボールメーカーから防災協定の申し出があり。今回のイベントでも連携できる可能性がある。
- **会場**：会場想定の日田林工の担当者を確認。

連携後押

地域防災計画について

今後の取り組みや動きも見ながら検討していく。

もう少し

１１．イベントの確定と関係団体と

地元メディア
この取り組みを日田市内外に広く知らせたい。
花月川流域以外への広報

地域の防災士
防災士の資格取得したがどのような活動をするべきか悩み中。防災アドバイザに登録した8名がたちあがる！
ワークショップの指導連携

日田市連合育友会
大雨で講演会が2年連続中止。今年は「防災」をテーマに講演会を検討中だった。各学校に参加要請。
小中学校保護者若年層の参加

防災イベントやるよー

ダンボールメーカー
全国のメーカーで広げるダンボールベットの防災協定を模索中。地域のためになることはぜひ協力したい！
組み立て体験会を実施

日田地区LPガス協議会
毎年実施している防災訓練イベントを連携して実施したい。災害時でできるノウハウを伝えたい。（炊き出しガス協賛）
ガス事業者の協力

建設業協会日田支部
現在災害復旧工事中。土木のノウハウを市民に伝えたい。
瀬建設業若手経営者が協力

ご当地グルメ団体
地域PRのノウハウが災害時の炊き出しに活かせることを知って欲しい。
他地域からの協力

スノーピーク
熊本地震でも避難所として活躍したテント。普段からテントのよさを知ってもらいたい。
防災企画らしくない展示

１１．イベントの確定と関係団体との広がり

1/25 KCV(地元ケーブルテレビ)

大分合同新聞（朝刊） 2019年(平成31年)2月8日 金曜日

氾濫の教訓 楽しく学ぶ

10日、日田 二つのフェスタ

日田林工高で防災講演

花月川流域、意識向上を

ひた防災フェスタ2019 in 日田林工高校体育館

ひた防災フェスタは10日午前9時半から、日田市丘山の日田林工高校体育館で開かれる。防災の最前線を走る人の講演や、おいしい非常食の試食と販売がある。近年の豪雨で氾濫した川の流域住民が、楽しく防災意識を高めることが狙い。

住宅が立ち並ぶ町内を流れる花月川は、2012年の九州北部豪雨で氾濫。複数の町内で浸水した。

「歌う防災士」と称される柳原雨保さん（熊本県長洲町）が地域づくりや被災地支援について話す。

段ボールベッド作り、アウトドア体験などを通じて「ひた防災フェスタ」。市内外の被災地支援に携わった2012、17年の九州北部豪雨を受けて、初めて企画した。

講演には同高の地元、吹上町などで、意識向上を目指して講演。全国の被災地支援の経験を踏まえて、自治会の学ぶ機会、情報発信を呼び掛ける。

「歌う防災士」が地域づくりや被災地支援について話す。

段ボールベッド作り、アウトドア体験などを通じて「ひた防災フェスタ」。市内外の被災地支援に携わった2012、17年の九州北部豪雨を受けて、初めて企画した。

講演には同高の地元、吹上町などで、意識向上を目指して講演。全国の被災地支援の経験を踏まえて、自治会の学ぶ機会、情報発信を呼び掛ける。

2/8 大分合同新聞

防災イベント 日田で10日

「楽しく知ろう！」心の備え」をテーマに、快適さを追求した避難所づくりや味にこだわった非常食など体験できる防災イベントが10日、日田市の県立日田林工高で開かれる。

同市のNPO法人「ひた水環境ネットワークセンター」が主催する「ひた防災フェスタ」。市内外被災地支援した2012、17年の九州北部豪雨を受けて、初めて企画した。

講演には同高の地元、吹上町などで、意識向上を目指して講演。全国の被災地支援の経験を踏まえて、自治会の学ぶ機会、情報発信を呼び掛ける。

同法人の河津勇成さん（46）は「楽しみながら、防災の知識を学んでほしい」と来場を呼びかけている。

午前9時半～午後2時。入場無料。問い合わせは河津さん（090・8042・7141）へ。

水などの被害に遭った花月川流域の複数の自治会が協力している。

イベントでは新聞紙の簡易スリッパなど、身の回りの物で代用品を作る体験講座や、非常食90種の試食販売などを実施。東日本大震災と熊本地震の被災者による防災講演会もある。

2/7 読売新聞

避難に役立つ知恵学ぶ

日田市で10日防災フェスタ

「楽しんで心の準備を」

2/6 西日本新聞

地元メディアでの紹介

① 受付

自治会長が会場への受付を担当

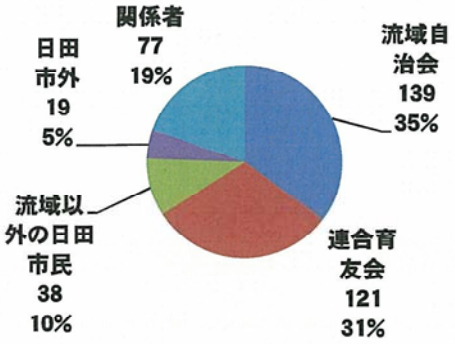
流域の自治会の協力のもと、参加住民を迎え入れた。受付では所属自治会名と氏名・年代を記載してもらい、参加住民には炊き出しの無料券を配布。あわせて、演会資料と新聞紙などを配布した。

① 受付

流域住民と市内の保護者を中心に約400名が集う

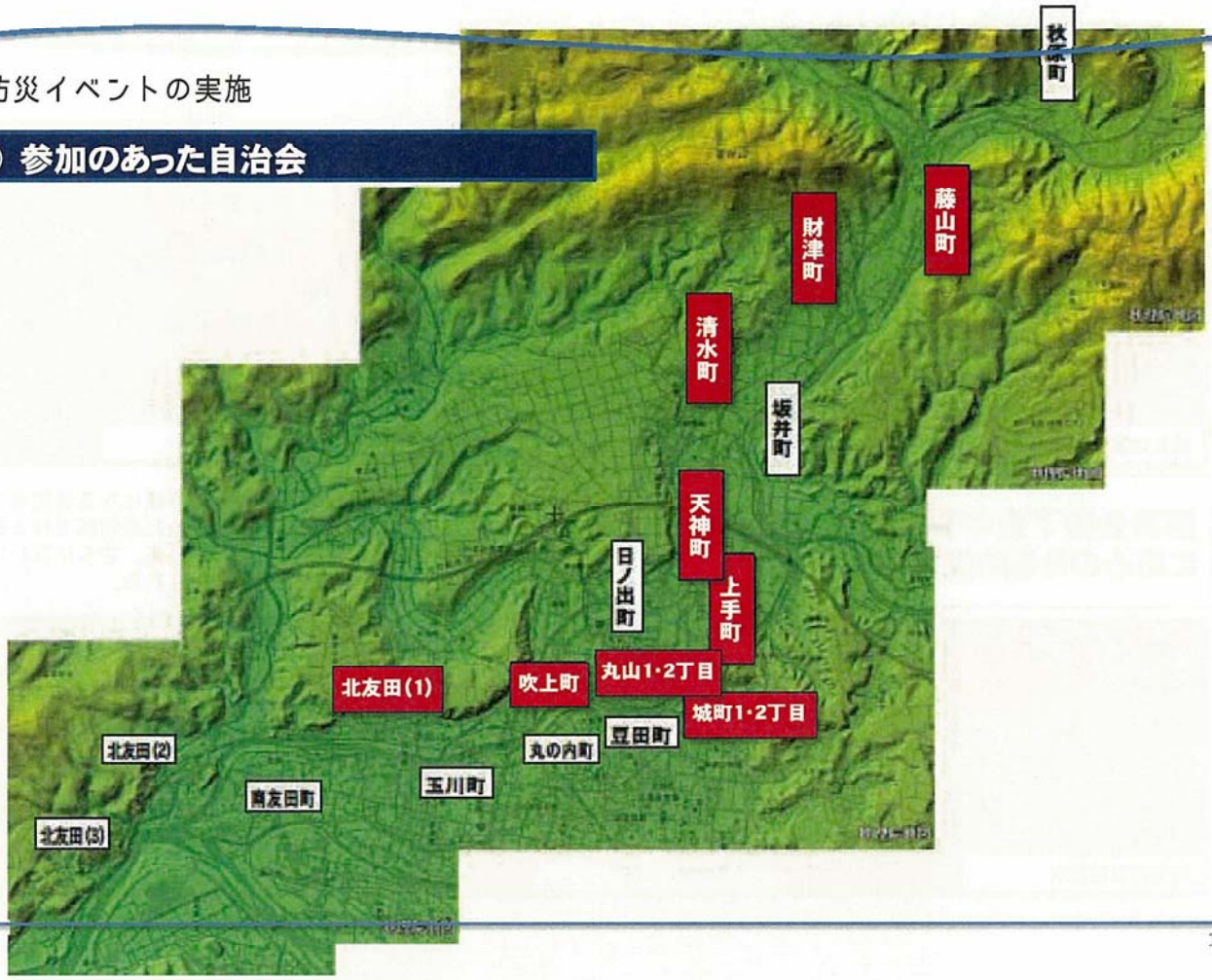
	10	20	30	40	50	60	70	80	不明	
吹上町									36	36
清水町			1	1	2	9	4			17
丸山二丁目	3		1	3	3	2	3	1		16
丸山一丁目				1		4	8		2	15
玉川三丁目				1	1	3	4	2	1	12
上手町				1	2	5	1	1		10
天神町	2		2		1	2			1	8
財津町					1	5	1			7
北友田一丁目				1			5			6
丸の内町		1			1	3				5
城町一丁目	1		1		1	1			1	5
藤山町						1				1
城町二丁目					1					1
豆田第一										0
豆田第二										0
流域外市内	2	0	1	10	8	12	5	0	0	38
市外	0	0	1	2	7	5	4	0	0	19
連合育友会			60	61						121
合計	8	1	67	81	28	52	35	4	41	317
	3%	0%	21%	26%	9%	16%	11%	1%	13%	

流域の自治会住民の参加者を見ると決して多くないが、広域の自治会で取り組んだこと、連合育友会との共催で行ったこともあり多くの参加者が集まった。30・40代の参加が目立った。



１２．防災イベントの実施

① 参加のあった自治会



１２．防災イベントの実施

② 講演会

老若男女が集い同じ時間で「防災（忘災）」について考えた講演会。

日曜日の9時30分という時間にも関らず多くの方が会場に集った。流域住民に加え日田市連合育友会（PTA）の保護者を中心に会場を埋めた。講師の経験を聞き熱心にメモを取る参加者も多く見られた。また自治会長の呼びかけで防災士の参加も目立った。

東日本大震災の経験を通して始めた活動について講演していただいた講師。柳原志保さん（左）と浅見公紀さん（右）

聴覚障害の方・地域の防災士の方も目立った。

子ども連れの保護者の参加も

ボランティア高校生も参加

③ 体験会　防災の知恵・ダンボールベット・スノーピーク

防災知恵ワークショップ

防災知恵ワークショップ

日田林工展示

講演会終了後の参加者は、それぞれに関心のある防災体験へ。

大人気はダンボールベット。組み立ててみたり横になる参加者も。防災の知恵ワークショップは、講演会で紹介された新聞紙で作る簡易スリッパやポリ袋のポンチョ。簡易担架などが人気。さらに互いに面識のない防災士がそれぞれに教えあう場面も見られた。

国交省災害展示

ダンボールベット

最新テント

防災の知恵で大活躍の防災士は実は…
防災フェスタ2日前に事前レクチャーを実施。

今回の防災フェスタをきっかけに連携することになった防災アドバイザ連絡協議会。防災フェスタの前に実際に「練習したい！」とのリクエストに応え、新加入の防災メンバーがレクチャーを実施した。

講師はこの2人

新聞スリッパ

簡易担架

簡易ポンチョ

１２．防災イベントの実施

③ 体験会　土嚢づくり・LPガス・災害食・炊き出し

LPガスで発電体験

正しい土嚢づくり

災害食販売

大人気は経験豊富なご当地グルメの炊き出し。ガス・土嚢づくりにも多くの人が集まる。

災害時に各地で炊き出しを行ってきたご当地グルメの炊き出しチーム。流域の参加受付者には無料券を配布して昼食代わりに振舞った。普段見られている土嚢も「便利な豆知識」を披露した。日常使うＬＰガスの災害時の活用方法や災害食にも多くの人が集まった。

田川ホルモン喰楽歩

浪江焼麺大国

佐伯ごまだしうどん大作戦

１３．防災イベントの成果

目標

住民が参加しやすい「楽しい」イベント

得られた成果

花月川流域14自治会。流域外21自治会。
市外からも多くの参加者が集い「楽しい」賑わいのある
防災イベントが開催できた。

地元自治会長が「受付」や「参加の呼びかけ」を実施。
自治会長同士の連携ができた。

「防災士」「地元企業」「建設組合」「LPガス協会」など
多くの方の賛同を得て実施することができた。

広域で行う防災イベントの例を示すことができた。
（イメージを共有化できた。）

■地元メディアでの報道

2/10 OBSニュース

2/15 地元ケーブルテレビニュース

2/11 西日本新聞

2/15 大分合同新聞

7．報告会の実施

2月26日（火）19時～
吹上町公民館で報告会（懇親会）を実施

■参加者：8名（6自治会）
吹上町・清水町・玉川三丁目・丸山一丁目
・丸山二丁目・上手町

報告会で出された意見

自分の自治会の参加者が少なかった。いいイベントだったので残念。参加者からは「楽しく」「ためになった」といわれた。

広域での取り組みや意義のイメージが見えてきた。これからも他の自治会や水環境ネットワークセンターと連携していきたい。

単独の自治会では、ここまで大掛かりで楽しい取り組みは難しい。多くの方に参加してもらうのはやっぱり楽しいほうがいい。

今日が最初の一歩。日田市全部は無理でも、まずは「花月川流域」からでも、連携した防災の取り組みを進めていきたい。

参加した自治会を中心に、流域として今後の継続・連携を確認

このメンバーが実行委員ですの声に拍手!

14．ひた水防災サポートセンターの今後の展開案

ひた水防災ニュースレターの発行
防災フェスタの様子をメイン記事にしたニュースレターの発行。防災豆知識や今後のイベントなども掲載。
防災サポーターも募集する。

↓

防災サポーターの募集
今後、共に行動してくれる防災サポーターを募集。
Facebookを活用して会員をネットワーク。

↓

協力自治会へ配布依頼
配布方法は要件等だが、今回のイベントに積極的に参観してくれた自治会に対しニュースレターの配布を再度依頼。

↓

出水期前懇談会
2019年の出水期前に自治会で懇談会を実施。今年の雨の傾向。安全対策の確認。自治会毎に備えの情報共有を行う。

自治会防災点検　懇談会を踏まえ自分の自治会の備えを点検。

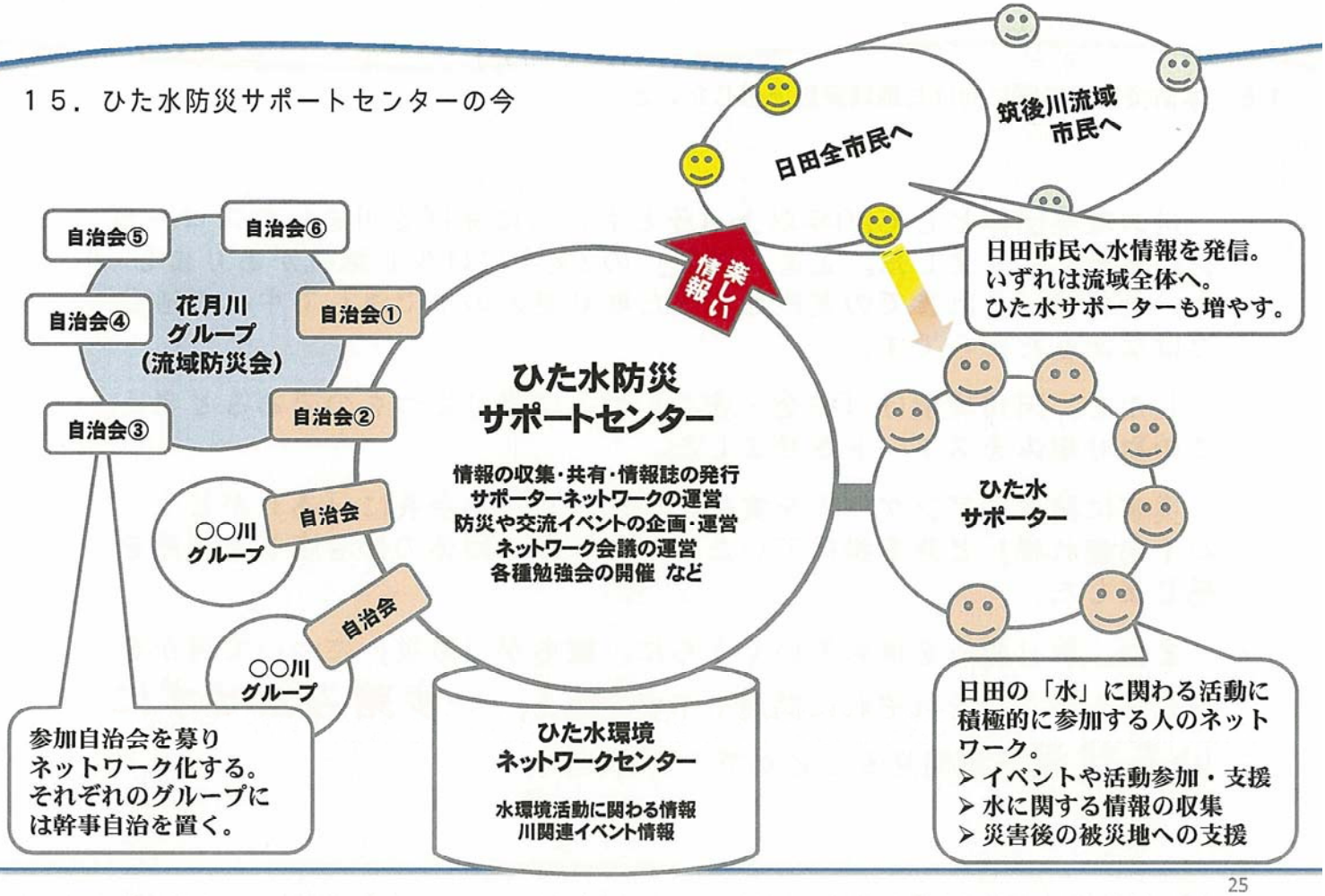
↓

安全総括
イベント実行員会の立ち上げ
2019年の出水時の安全総括を行い、防災意識啓発に向けたイベント実行委員会を立ち上げ、内容の検討を行う。

↓

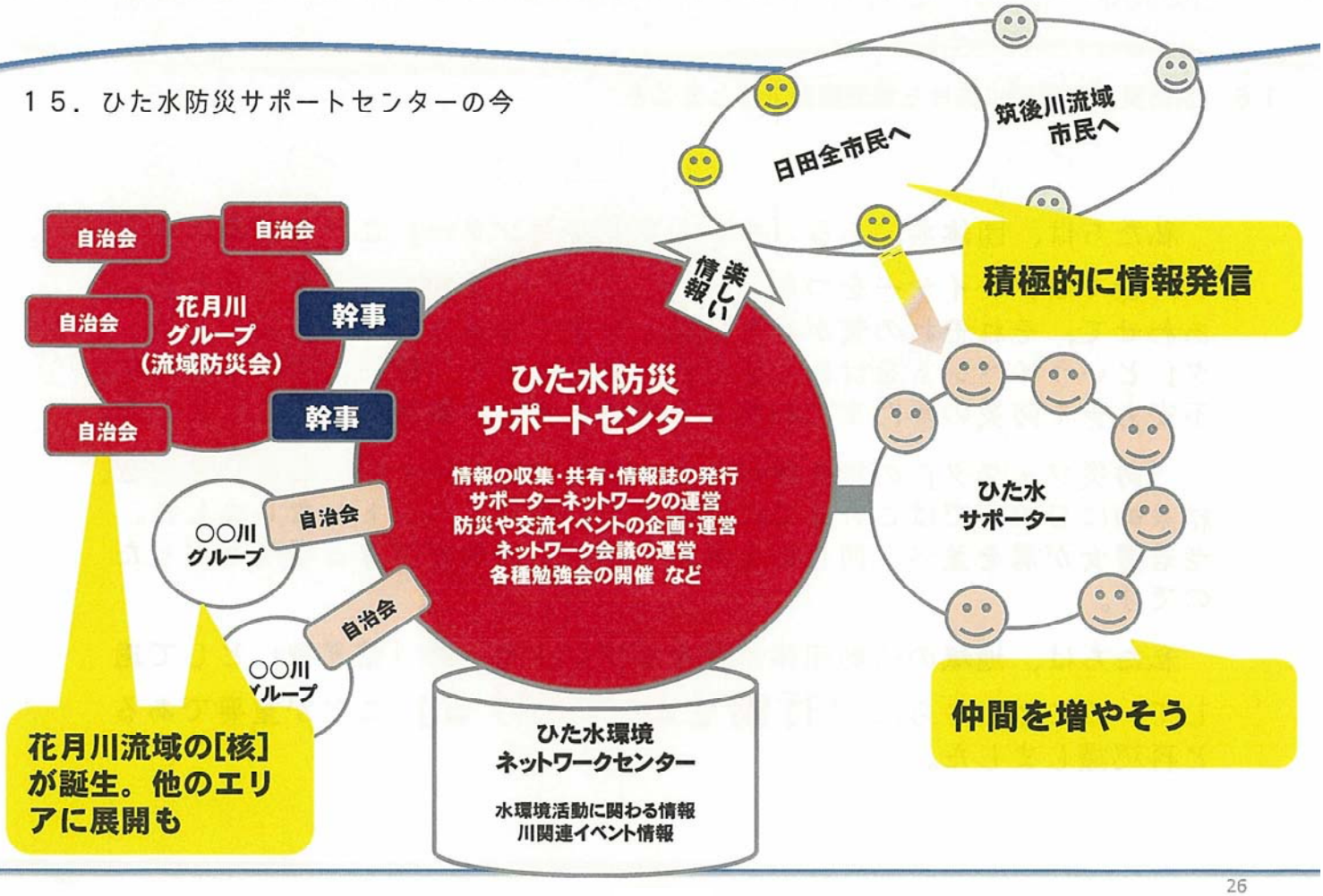
第2回　防災フェスタの実施　**2020年の出水期の防災意識向上に向けたフェスタの実施**

１５．ひた水防災サポートセンターの今



25

１５．ひた水防災サポートセンターの今



26

１６．水防災意識構築に向けた地域実践で感じたこと

川の環境団体として20年以上「子どもたちに泳げる川を」をスローガンに活動してきました。正直「防災」の2文字には少し抵抗がありました。それは、これまでの実践してきた取り組みの中で決して中心の活動ではなかったからです。

しかし、河川環境は「安全・安心」の上に成り立つものであると考え、この取り組みをスタートさせました。

災害に関するアンケートを実施した際に、自治会長に「ありがとうね！お疲れ様」と声を掛けていただきました。団体の知名度と信頼感を感じました。

また、取り組みを進めていくうちに、誰もが「防災」について何かをはじめたいが、それぞれに問題や不安を抱え、**一歩踏み出せずにいる状況**を垣間見ることができました。

27

１６．水防災意識構築に向けた地域実践で感じたこと

私たちは、団体名にある「ネットワークセンター」という言葉にならい、様々なプレイヤーをつなぐ**「繋ぎ役」**を担おうと考えました。あわせて、それぞれの繋がりを認識しやすくするために「防災フェスタ」というイベントを計画しました。はじめての「防災」の取り組みに、不安も多く防災の専門家にお叱りを受ける覚悟で実施の準備をしました。

「防災フェスタ」の旗を掲げると、多くのプレイヤーに賛同いただき、結果的に日田市ではこれまでに類を見ない防災イベントとなりました。老若男女が肩を並べ、同じ話を耳にし、同じ体験ができる場所となったのです。

私たちは、地域の活動団体が様々なプレイヤーの「繋ぎ役」として適していること、さらに**「行動を起し続ける」**ことが重要であると再認識しました。

28